

諏訪湖クラブニュース No. 19

平成 25 年 11 月 発行

もくじ

- 近況報告を兼ねたご挨拶
- 諏訪まちアートフォーラム 2013「アートカフェ・諏訪塾」
- 寄稿 ふしぎな体験
- 寄稿 ミンダナオの風を…探しに!!! その2
- 理事会報告

近況報告を兼ねたご挨拶

諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫

暑い夏が過ぎ、紅葉の季節となりました。最近では温暖化の故か春と秋が短いような気がしています。それでも、短いなりに花の季節と紅葉の季節は待ち遠しいものです。10月上旬、朝のニュースにつられて家内の運転で白駒池の紅葉を観に行ってきたのもそのような心情の表れかもしれません。久しぶりの北八ヶ岳の景色は変わりませんでした。自動車と観光客で一杯、路も手入れされて歩きやすく、以前とはずいぶん変わっていました。北八ヶ岳の売りの一つ、森の静けさと苔むした林床の湿っぽさを観光スポットで求める方が無理というものでしょうが、ちょっと寂しい気がしました。

10月30日には縮枯現象を研究されていた東京都立大学の故木村允教授を偲ぶ集まりが康子夫人の招集により麦草小屋で開かれ、出席しました。私が学生時代、大学院生だった木村さんの手伝いでしばしば麦草小屋を訪れたのはかれこれ50年ほど前になります。実は、木村さんご夫妻の出会いはこの麦草小屋でした。当時の麦草小屋は北八ヶ岳随一のみずぼらしい小屋でしたが、現在は瀟洒な山小屋となっています。数年前に、当時から小屋の念願であった井戸が掘られ、水の美味しい長野県下でも五指に入る素晴らしい水が使えるのも驚きです。小屋のご主人も代が変わり、当時、山賊の親分のような前ご主人は86歳の好々爺になり、誰彼の判別はつかないようでした。それでも雑談をしているうちに記憶が断片的に戻るのか顔つきも元気になり、話も弾むようになりました。参加者も青春時代を思い出す、楽しい一時を過ごしました。翌朝、没後17年間骨になってからも奥様と一緒に自宅で過ごされていた木村さんを茅野市湖東の八ヶ岳を望める墓地に納骨してきました。17年後という事情は長くなるので割愛します。

10月17日から19日には諏訪圏工業メッセに参加しました。昨年も信州ネットSUWAのブースを一画頂き、自然エネルギー普及促進の活動紹介をしましたが、今年は諏訪圏域の住民団体と6市町村の活動全体を一画に集めて紹介することができました。自然エネルギーに対する関心は老若男女を問わず浸透しつつあることを実感させられた三日間でした。

最後に私事の経過報告です。今年の春にお医者さんからガン宣告を受けた私ですが、その後も自覚症状は無く、至って元気に暮らしています。もちろんホルモン治療は始めているので、その効果は上がり、PSA値は0.04まで下がりました。次はがん細胞を除去するための放射線治療に入ります。予定は12月2日から週5日、7週、計35日の放射線照射となります。これも新しい体験ですので、どのようなことになるのか楽しみにしています。ホルモン治療では体全体の細胞が以前より静かになったような感じがしています。ただ、薬の副作用で時々頭が熱くなり、頭の汗腺からじわっと汗が出ることがあります。最初は今年の夏が例年になく暑い故と思いましたが、お医者さんのおっしゃるには薬の副作用とのもので、納得しました。それ以外には全くと言って良いほど体調に変化は無く、食事もお酒も以前と変わることなく戴いています。皆様もお体に気をつけて、元気に、楽しくお過ごし下さい。(2013.11.1記)



諏訪まちアートフォーラム 2013

アートカフェ・諏訪塾

諏訪まちアートフォーラム座長・諏訪湖クラブ理事 五味 光一

本年も昨年に引き続き下記3回のアートカフェ・諏訪塾を開催しました。

Vol. 1 : 高島藩ゆかりの地を巡って語ろう (9/28)

Vol. 2 : 大隅流宮大工の里を巡って語ろう (10/14)

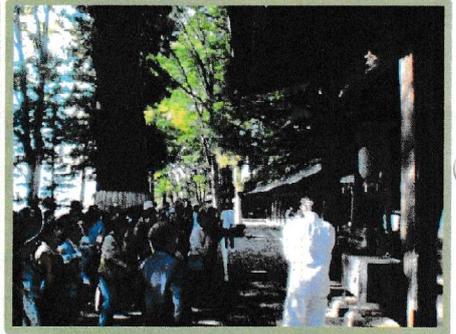
Vol. 3 : 深山霊場の紅葉の名所を巡って語ろう (11/10)



西国三十三番観世音



温泉寺輪蔵

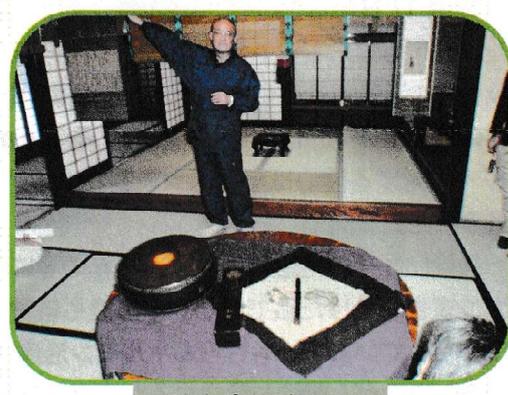


手長神社

「高島藩ゆかりの地を巡って語ろう」は旧丸光前～西国三十三番観世音～児玉石神社～高島藩主廟所～手長神社・聖徳神社～高国寺～貞松院と巡りました。目玉は普段は御霊屋に囲われていて目にする事の出来ない、二代藩主「忠恒」の墓石です。露天のため他の墓石には残っていない彫文字の金泥が、忠恒の墓石には確認することが出来ました。このまち歩きはサプライズが多く、私もが予定外のお宝を拝見出来ることが多いのですが、今回も温泉寺の輪蔵(立川和四郎富棟作)や松平忠輝の遺品、特に乃可勢の笛(信長→秀吉→家康→忠輝)などはスケジュールも忘れて見入ってしまいました。



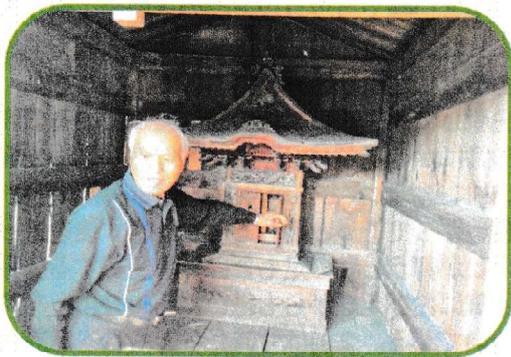
諏訪忠恒墓碑



貞松院

「大隅流宮大工の里を巡って語ろう」では旧上桑原(普門寺)を足長神社～普門寺太子堂厨司～岩久保観音堂～白狐稻荷神社～仏法招隆寺と大隅流の名作を巡りました。今回の目玉も普段目にする事の出来ない、覆い屋で守られる太子講厨子や白狐稻荷神社と、足長神社や岩久保観音堂の内部見学でした。実は今回は裏テーマ「平安時代から守られている御社宮司平ノ大祝の祖・有員親王館跡」がありました。千二百年もの間、詳細は知らずに口

伝で御社宮司平や御曾儀社などを守り続けた普門寺の人柄には驚かされますし、説明のつかないパワーを感じる地でした。サプライズな仏法招隆寺の内部(大隅流彫刻・天井絵)と白岩観音の注文請書(立川和四郎富棟)は私の貴重な資料になりました。ゲストは前回に続き大人気の宮坂清宮司と大隅流を継承する石田喜章・小松金治氏をお招きし、貴重なお話をいただきました。



普門寺太子堂厨子



岩久保観音堂天井絵

次回の「深山霊場の紅葉の名所を巡って語ろう」は絵地図師の高橋美江さんをお招きして、紅葉の名所の温泉寺庭園～唐沢山阿弥陀寺～地藏院庭園を巡ります。天候が不順で紅葉のタイミングが心配なところではありますが、更に楽しいイベントにしたいと思います。



白狐稻荷神社



仏法招隆寺成田堂彫刻・天井絵



第2回カフェ

毎回、まち歩き時間が押してしまいカフェの時間が短くなってしまいますが、実はこのカフェが一番重要と考えています。諏訪の銘菓を食べながらのお茶会ではありますが、様々な視点での感想やまちづくりへの提案を集めるのが「アートカフェ・諏訪塾」の目的であり、それを基に今後の諏訪のまちづくりを創造することが「諏訪まちアートフォーラム」の目標だと考えているからです。その様な意見がだんだん出始めてはきましたが、やはり時間が足りません。そこで、11月22日に番外編を企画しています。上諏訪の酒蔵界限(私が個人的にまちづくりの中心と考えている)を巡り、真澄さんを会場にして本来の目標に近づけたいと考えています。参加者は当フォーラムメンバーだけでなく、諏訪塾に参加された方なども含め広く募りたいと考えています。詳細はメールで後日お知らせしますが、興味のある方は是非ご参加下さい。

第1回カフェ

お茶菓子



寄稿 ふしぎな体験

会員 林 正敏

インプリティング(imprinting)、耳慣れない単語ですが鳥の世界では特に地上で繁殖した雛が生き延びるために不可思議な「刷り込み」という現象を意味します。

端的に言えば卵から出てきた雛のもっとも近くにいる動く物体を、一瞬のうちに親と認める特殊な能力のことです。当然のことですが普通はまぎれもない雛の親であるはずですが、仮にゼンマイ仕掛けの人形がそこにいたならば、血の通わない人形も雛にとって無二の親となるのです。驚くことに一度刷り込まれた能力は、決して後戻りすることがありません。この行動学を理論的に説いた人物がオーストラリアのノーベル賞受賞者、コンラート・ローレンツ博士です。

私がこの興味深いこの刷り込み行動を、自ら体験する幸運に恵まれたのは1982年のことです。ある動物園からマゼランガンの有精卵3個が送られたことがきっかけでした。このガンは南米チリ—などに生息する美しいガン。私は鶏卵よりずっと大きな卵を手「この鳥を育てて原産地の草原に放鳥できないものか・・・」と夢が大きく膨らみました。運よく庭で放し飼いにしていたチャボが軒下で抱卵を始めたばかり、その卵とのすり替えにまんまと成功したのです。

やがて孵化予定の30日が過ぎたとき2個の卵に小穴があきピー、ピーと雛の声、いよいよ雛誕生の瞬間だ。ところがここで大問題が起きたのです。ふつう親鳥は抱卵中にとどき転卵(卵を転がす行動)をします。卵に万遍なく体温を伝えながら、同時に雛の体が卵の殻に癒着させないための行動ですが、今回は仮親にくらべて卵が大き過ぎ、転卵ができなかったのです。

卵の殻に体がくっついた雛は、10時間たっても脱出ができず、命の危険が迫ったため、やむなく強制ふ化にふみ切りました。ピンセットを使って少しずつ慎重に殻を割る。それでも雛の薄く柔らかい皮ふは破れ、2羽とも血まみれになって誕生しました。

暖房を効かせたタオルの上で3時間余り。やがて

弱々しく持ち上げた頭、私が顔を近づけながら差し出す手を、小さい嘴でコツコツとつき懸命に何かを求めていました。実はこの一瞬の初対面で人間である私を親であるとした刷り込みが完了していたのです。

危機を脱して1週間。2羽の雛は座っている仮親である私の膝にかきあがり、服の隙間に潜り込んで仮眠をする。外に連れ出すとさかんにイネ科の雑草を食う、わざと意地悪してそっと離れるとすかさず後を追った。低空をトビが舞うと私の足もとに緊急避難する。県道を歩くと車におびえながらも縫いぐるみのような可愛い姿でついてくる。2羽は寸時たりとも私を意識しないときはありませんでした。

4か月後、翼を広げると1メートル以上。貴公子のように気品にみちた姿に成長した若鳥が初めて低空を飛びました。当時、私の家は田園地帯の一軒家。100m四方が緑一面で、飛んでいても目標となります。飛翔する彼らに向かって大きく手を振るとスーと目前に舞いおりにくる、それはまさに夢の世界でした。

最初の冬、2羽は雪をかきわけ地面にある越冬芽をむしりって食べるなど、たくましい野性味を見せつけました。

しかし、私にとって南半球の自然に帰そうとした遠大な夢は突然打ち砕かれました。早朝にうろついていた野犬が2羽を襲ったのです。あれから30年余、今でも彼らと終日屋外で過ごした楽しい日々が忘れられません。

あのマゼランガンにとってなぜ刷り込みが必要だったのか。それは危険がいっぱいの地上で雛の一時期を過ごすためには、安全確保と餌場への移動などは、刷り込みで結ばれた親との緊密な関係を保つことによるのみ生き延びる。雛にとっては生命線だったのです。

私の思いはかなえられませんでした。最後まで私を親と認めていた鳥とのふしぎな体験は、いまもって夢のなかの出来ごとのような気がしてなりません。

庭の草地でさかんに草をついばむ雛



私が近くにいると安心して息子のところにも



寄稿 ミンダナオの風を・・・探しに!!! その2

専務理事 長崎 政直

ブンドク地区

山の中へ入って20分も走ったでしょうか。手前の電気も来ている少し大きな集落で、路傍にたむろしている女性達に道を聞き、ブンドク地区へ入りました。



MCLFの一団が20戸弱の集落につくと、子供、大人、老人、多くの住民が家々から続々と集会所へ集まってきました。

子供は、はにかんだり、訝しげだったり、老人たちも見慣れぬ私たちの到来に迷惑そうな面持ちです。異邦人の到来、もう不審者扱いです。集落内をあちこち徘徊して様子をうかがうのですから当然です。生涯この辺りから外に出たことのない人もいるという事です。

どうしてこんなところに・・・

松居さんが聞きます。「どうしてこんなところに居るんだろうって思いませんか!？」

ちょっとエアポケットに入った「空」の感覚の中で、ここはまったく違う世界・・・風も・・・空気も・・・空を見上げれば暑い日差しの中で、時間が止まっているようです・・・どうしてこんな処に・・・私はいるのだらう・・・でもポーっとしたこの感覚が私は好きだ。

シンガー・ソング・ライターの阿部さんとそのお友達のまわりには人垣ができその輪の中で阿部さんが自作の歌を唄います。

日本語の歌詞はわからなくてもメロディーやそこにある感性には共感が生まれます。歌は世界の共通語です。不審な面持で最初は乗れなかった子供達もいつしか一緒にリズムを刻み、スウィングします。

この人垣から離れてDay Care Center 建設の最終打ち合わせが続けられています。

一軒の軒先で住民が集まって「なんか保育園作ってくれるそうだよ」・・・「そりぁありがたいね!!」

MCLF スタッフと松居さんが打ち合わせ、部落長に説明、スタッフの一人が部落長や村の大工さん達と工事計画の打ち合わせと続きます。大工さんの一人がスタッフに「ところでお前さんは、この村出身だべさ!お前さんの事覚えているよ!りっぱになったもんだ!この村のためによろしく頼む!!」「マーマー!!俺も覚えているよ、おいさんの事!俺も頑張るから、おいさんも約束守って、よろしく頼むよ」というような展開でしょうか!最後に下の大きな部落に戻って、村長さんに保育園建設計画の説明で、落着。

この交渉にあたったMCLF出身の青年は、今やブンドク村の希望の星です。そしてこの青年だけではなくMCLFで現在面倒を見てもらっている子供たちを含めて、松居さん関係者は誰もが明日のミンダナオの希望の星だと私は思う。

不審者だった私も、1本のタバコを老人達に差し上げ火をつけてあげると、たちまちお友達に変わりました。

打ち合わせが終わり、集落を去り際には握手してお友達確認をしました。多くの住民が見送ってくれました。

計画されているDay Care Center は建坪4m×6mという小規模のもので、机やイスその他備品を含



めて総工費 30 万円とのことです。子供が歩いて 1 時間以内の近隣のいくつかの集落からここに就学前のしつけや基礎学習を学びに来るのです。対象者はおおよそ 60 名ほどと聞きました。当然面倒を見る先生が必要になります。これからの維持・管理の大変さが想像できます。

こうした Day Care Center の建設資金は日本の個人の篤志寄付や、私立の幼稚園、高校、ロータリークラブ、ローターアクトクラブ、ライオンズクラブ、ソプロチミスト、宗教団体等々が寄付しています。

MCLF の活動資金は、年間 2000 万円程度で、99% 個人等による寄付で賄われているという事です。

セブでの交流会でグアダルペ・ロータリークラブの元会長コニーさんの「継続して支援されることがほとんどない・・・」というフレーズが思い浮かびました。

松居さんも「継続し安定した資金が欲しい・・・」と話されました。

帰り道もしばらくは水に浸食されたガタガタの山岳道路です。一部、わずかですが、平らにならされた道もあって、ダンプ・カーが数台いて、そしてローラー車が地ならしをしていました。その道の少し奥まったところに、そのあたりでは庭付きの立派な家がありました。村長さんの家だそうです。古今東西、政治家のすることは・・・とか皮肉な想いに囚われています。

両側に、あのバナナ・プランテーションが続きます。

フィリピンの、ミンダナオの、今です。

ミンダナオ子供図書館財団 MCLF

MCLF はキダパワン市中心から東 7km あたりにあり、寄宿舎、モスレム（礼拝堂）、スタッフの家、松居さんの家、スタジオ、野菜畑などが配置されています。

寄宿している子供たちの部屋は 10 畳くらいだろうか・・・4 人が 1 部屋で暮らしています。宿舍と松居さんの家との間に物干し場があって、子供たちが自分で洗濯した衣類が干されています。

トイレは便座のない便器で、使うのにちょっと苦しい。この使い方には 2 説ある。①そばに置いてあるバケツの水をかけてきれいにしてから座って用をたす。②中腰で便器に触らないようにして用をたす。

溝口先生も、小池君も、とうとう滞在中、用をし

なかったとのことでした。

午前 9 時を過ぎても学校へ行かない子がいたのでどうしてか聞くと「英語だけの特別クラスなのでその時間まではいかない」のだそうだ。

この部屋は彼女の部屋なので許してもらって撮影しました。



寄宿舎の子供たちは、とても人懐っこく、私たちが到着して、与えられた今夜のベッドのある部屋に入ると、代わる代わる来て、質問をします。

What's your name? Where do you come from? 英語で書いた名札を示して、読んでもらいました。

MA-SA-NA-O NA-GA-SA-KI...From Japan. Do you know where Japan is? No, I don't know.

部屋に地図はないかと探してみましたが見つかりません。そこでメモ帳の小さな地図を出して、ここが日本、ここが子供図書館、と指し示し、分かった？子供たちはふーんとした顔をしています。

突然、停電しましたが子供たちは、慣れているのか、それほど驚きませんでした。蝋燭をハウス・キーパーの叔母さんが持ってきてくれ、薄明かりの中で子供たちはひしめき合っていました。溝口先生が「海は広いな大きいな・・・井・・・」と歌い、子供たちになぞらえさせます・・・明かりが戻ってきたときは歓声が上がりました。



私をととても気に入ってくれたらしい一人の子がいて、気になって時々その子を見ると彼女も私を見ている。これではもう恋人関係です。

食事はいたって質素で、夕食は一汁とご飯です。お汁をかけてご飯をたっぷり食べて満腹にします。朝食は、茄子2片とオクラ1片の煮つけと小魚1尾、それからたっぷりご飯です。一日のおコメの消費量は50kgとのこと。まずお祈りをして食べ始めます。それぞれの出身部族の習慣か、手で食べる子、スプーンを使う子、様々です。

松居さん親子も皆と同じ場所で同じ食事を一緒にとります。

一日ゲンマイ四合ト ミソト少シノ野菜ヲ食べ・・・を思い出しました。

夕食後私たちの歓迎会を開いてくれました。運営は年長のリーダーが仕切ります。それぞれの出身部族が紹介され、その部族に伝わる民謡を唄い、最後に代表が歓迎の辞を述べてくれます。歓迎のあいさつ文を途中で思い出せず、途中で切り上げて、ありがとうと言って戻る子もいました。

私は途中で疲れてきて、私の横で仕切るリーダーに、そろそろ眠くないかい・・・と歓迎会の終わりを促すのですが、にっこり笑って、首を横に振ります。ダメ・ダメ!!おじさん、最後まで私たちの歓迎の気持ちをしっかり受け止めなければ・・・という微笑みです。反省の瞬間です。

1時間余の歓迎会でした。会の終わりに集まった子供たちは、私たちをハグしてくれました。私を気

にしていた彼女のそれは、力強く、温もりが、私の体に浸み込むようでした。他の子よりも長く抱きしめました。この子をひどく愛おしく感じたものです。

私を気にいってくれたらしい・・・



彼女の家族

3年前

読み聞かせに挑戦

松居さんは後ろで会の進展を黙って試しています。良くは知りませんが、無着成恭さんの教えそのものだろうと思います。

歓迎会の終わった後、松居さんと奥さんのエイプリル・リンさんは、私たちの気分を慮って、MCLFのスタッフとともに街の屋台へ連れ出してくれました。串焼きの鶏肉や豚肉、魚を肴に、薄暗い中、異国情緒を楽しみながらしたたかにビールを飲み、おかげで小池君の相変わらずの高いびきにもかかわらず、その夜はぐっすり眠ることができました。

部屋と部屋とは竹で編んだ薄い壁ですからその網目から光も漏れてくるし、軒はなおさらです。お隣さんには大迷惑だったでしょう。

—その3に続きます—

※前回掲載分間違がありました。以下の通り訂正してお詫びします。

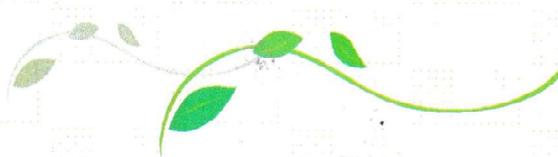
「手を差し伸べなければならない子供が増える背景

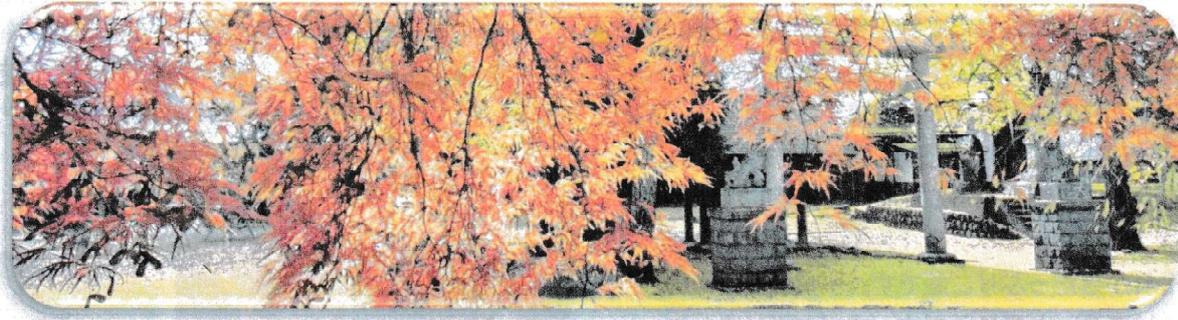
: 内戦と貧困

P.7 左段 33行目

・・・ 直近の戦闘は **誤** 1912年3月～12月にかけて・・・

正 2012年





高島公園のもみじ (写真提供 藤森淳子様)

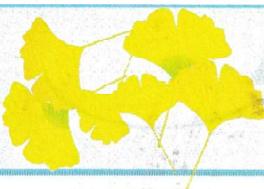
理事会報告

- 第 59 回 日 時：H25 6 月 26 日 (日) 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、宮坂、八幡、五味、長崎功、高木
内 容：
1. つなごう諏訪湖 概要説明 (高木) 趣意に賛同し、クラブは協賛とする
2. 諏訪市アートフォーラムについて (五味理事)
3. 諏訪市地中熱、温泉熱関係 (沖野会長)
4. 岡谷小学校あり方検討委員会
5. 武井武雄生家の保存について

- 第 60 回 日 時：H25 7 月 21 日 (日) 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、長崎政、宮坂、五味、長崎功、大和、小坂、高木
内 容：
1. 諏訪湖クリーンフェスティバル9月8日(日)参加について
2. 諏訪湖環境改善行動会議(ヒシ刈り取り)について
3. 豊田処理場太陽光発電所地鎮祭、今後の予定等
4. ニュースの発行について
5. スマート・シティ構想 (大和直人氏)
6. 本の紹介『ドイツに学ぶ地域からのエネルギー転換』

- 第 61 回 日 時：H25 9 月 15 日 (日) 午前 10 時～11 時半
出席者：沖野、金子、宮坂、五味、宮原、市川、高木
内 容：
1. 諏訪湖クリーンフェスティバルについて
2. つなごうすわ湖について
3. 信州ネット SUMA の活動について
4. その他

- 第 62 回 日 時：H25 10 月 20 日 (日) 午前 10 時～11 時半
出席者：沖野、金子、八幡、宮坂、五味、長崎功、田代、高木
内 容：
1. 「つなごうすわ湖」(10月13日)報告
2. 諏訪圏工業メッセ(10月17日～19日開催)報告
3. 下水道利用研究会について
4. アートカフェについて
5. 平成 25 年度忘年会の開催について



企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局
TEL/FAX 0266-58-0490
E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

諏訪湖クラブニュース

No. 19